

1 「さ・ぬ・き力」(非認知能力)に関する学級(34名)の実態

授業づくりの重点項目		
<p><b>さ力</b></p> <p>社交性</p> <p>共感性 協調性</p> <p>「社交性」の自覚度が高い。「友達に気軽に声をかけている」「人と話するのが好きだ」といった質問項目に肯定的に回答した割合が高く、授業中だけでなく休み時間でも、色々な友達と分け隔て無く交流している姿が見られる。</p> <p>「共感性」の値は他と比べると少し低い、「友達が失敗した時でも、その友達のことを許している」の質問項目に肯定的に回答した割合が高く、何かを失敗した相手を責めることなく協力的に物事を進めようとする子供が多い。</p>	<p><b>ぬ力</b></p> <p>目標への情熱</p> <p>粘り強さ 忍耐力</p> <p>「目標への情熱」の自覚度が高い。特に「授業の中で、新しいことを知るのを楽しんでいる」の質問項目に肯定的に回答した割合が高い。新しい題材の学習を始める際にはその曲に対する興味を高くもち、意欲的に学習できる子供が多い。</p> <p>「忍耐力」の自覚度が他に比べると少し低い、「目標への情熱」「自制心」の結果と併せて考えると、題材への興味をもち、「難しそう」ではなく「やってみよう」という肯定的な思いを高めることができれば、「忍耐力」も発揮できると考える。</p>	<p><b>き力</b></p> <p>自分を信じる力</p> <p>レジリエンス 自制心</p> <p>「自制心」の自覚度が高い。特に「自分で決めたことは最後までやり通している」の質問項目に肯定的に回答した割合が高い。</p> <p>「自分を信じる力」の質問項目では、ほぼ全員が自分には得意なことがあると感じており、自分のよさに目を向けることができる子供がほとんどである。一方で、自分の苦手なことや、できないことを気にしてしまう子供がかなり多く、自分のよくないと感じる部分にも目が向き、そのような部分を気にしてしまう子供が一定数いるようである。</p>

2 教科に関する学級の実態

- ・合奏の授業が(どちらかといえば)好きだ(30名)  
 主な(どちらかといえば)好きな理由(複数回答含む)  
 みんなで合わせるのが楽しいから(17名) 楽器を演奏するのが好きだから(13名)  
 (どちらかといえば)嫌いな理由  
 合わせるのが苦手だから(3名) 楽器がうまくできないから(1名)
- ・「いい合奏をするために大事なことは何か」という質問に対する主な回答(複数回答含む)  
 友達との協力に関すること(24名) 練習への努力に関すること(16名)

3 個別支援が必要な子供の実態

A児…グループ活動で友達と合意形成を図るのが苦手で、納得がいけないことがあると話合いに参加するのをやめてしまうこともある。協力することの大切さは理解しており、友達と関わることを嫌がるわけではなく、普段は話合いに意欲的に参加することができている。

第4学年西組 音楽科学習指導案

「音と気持ちを合わせて ～『ラ クンパルシータ』～」

学習指導者 高塚 仁志



1 本題材で目指す『自ら伸び続ける子供』の姿

【詳細はこちら】

本題材では、11～12人のグループによる『ラ クンパルシータ』の合奏を通して、アルゼンチン・タンゴを各声部が息を合わせて演奏することで生まれる、情熱的な響きの面白さを感じながら演奏を楽しむことを目指す。題材の最後には、合奏のコンクールを開催し、3名の審査員（教員）が演奏技術（音を合わせて演奏する技能）および楽曲理解（曲の特徴を捉えた表現を工夫することができるか）の観点で各グループの演奏を審査する。子供たちはコンクールに向けて、「グループの演奏をよくしていくためにはどうしたらよいか」という問いを見いだし、範奏から聴き取ったタンゴの特徴を基に、よりタンゴらしい演奏にするために思いや意図をもち、グループ全体の演奏技能を高めたり、強弱や速度等の表現の工夫を考えたりしていく。そのような意識をグループで共有した上で練習をしていくことで、例えば、リズムが取れなくて困っている友達がいたら、「打楽器パートの音を聴きながら演奏するとリズムが取りやすいよ」というようにアドバイスをしたり、隣で手拍子を叩いてリズムを取りやすくしてあげたりといった友達の手助けをしたりしながら、グループの演奏技能を高めていくだろう。また、録音した演奏を聴くことでグループの課題が解決されているかを確認し、「最後の部分をもっとゆっくりはつきり演奏するとタンゴらしい演奏になるんじゃないかな」「確かにそうだね。何度も練習してみよう」というように、曲の特徴をより捉えた表現にするために何度も練習に励んでいく姿も見られるだろう。本題材の学習の過程で、友達と息を合わせて演奏することで生まれる響きのよさを実感したり、強弱、速度といった音楽を形づくっている要素を工夫することで、より曲に合った表現ができることに気付いたりした子供たちは、合奏の楽しさを感じながら、題材のゴールであるコンクールに向けて意欲を高めていくだろう。

2 題材計画と働きかけの概要（本時 5/6）

㊦：価値付け

次	学習の流れ	働きかけ
一	<p><b>① タンゴはどんな音楽だろう</b></p> <p>タンゴの曲を聴いたり、ダンスの映像を視聴したりすることで演奏への意欲を高めるとともに、タンゴらしい演奏の特徴を捉える。また、題材のゴールであるコンクールに向けて、演奏をよくしていくための練習の秘訣を考える。</p>	<p><b>見通し</b> 情【完成度&amp;課題確認タイム】③～⑥</p> <p>これまでに記録してきた演奏の完成度と、グループの現段階の課題を見ることで、課題を解決してさらに完成度を上げるために練習したいという思いを高める。㊦グループの課題から本時の目標をもち、練習へのやる気を高めている姿に共感する。</p>
二	<p><b>②③ 中間審査に向けて演奏の練習をしよう</b></p> <p>各声部の演奏方法を確認した上で、アドバイスし合いながら自分の担当する声部を演奏できるように練習し、タンゴらしい演奏にするために必要な技能を身に付ける。最後に、音声によって行われる中間審査のために演奏の録音を行う。</p> <p><b>④⑤ 金賞を目指してグループの演奏をもっとよくしよう</b></p> <p>中間審査の音声と審査員講評を見ることで自分たちの演奏を振り返り、音色、強弱、速度等の工夫によってさらにタンゴらしい演奏にする方法を考える。中間審査より高得点を出して、コンクールで金賞が獲れるように、現段階のグループの課題を明確にした上で練習を行い、演奏をよりよくする。</p>	<p><b>行動</b> 共・忍【完成度を高める秘訣ボード】</p> <p>②～⑤ 自分や友達のその場の状況に合わせて使える声かけの話型や練習の例を複数示し、助け合ったり、繰り返し練習に取り組んだりできるようにする。㊦友達立場に立って声をかけたり、何度も練習に励んだりしたことで完成度が高くなったことを、予め教師が用意したコメントを見せることで称賛する。</p>
三	<p><b>⑥ コンクールで練習の成果を発揮しよう</b></p> <p>3名の審査員によるコンクールを行い、賞を発表する。また、友達のグループの演奏のよさにも気付いて伝え合い、題材全体を通して感じた演奏の面白さや、合奏をよりよくするために頑張ってきたことなどを振り返る。</p>	<p><b>振り返り</b> 信【完成度&amp;頑張りチェックシート】</p> <p>②～⑤ グループの演奏の完成度を記録し、完成度が高くなった理由を選択肢の中から選んで振り返ることで、自分の頑張りを実感する。㊦自分の頑張りを選択肢から選び、次にしたいことを考えられている姿に共感する。</p>

3 本時の学習

目 標	グループの課題を解決するために、どのように演奏するかについて思いや意図をもち、友達と声をかけ合って協力したり、よりよい表現になるまで何度も繰り返し練習に励んだりして、思いや意図に合った演奏をするための技能を高めながら、演奏を工夫していくことができる。
--------	---

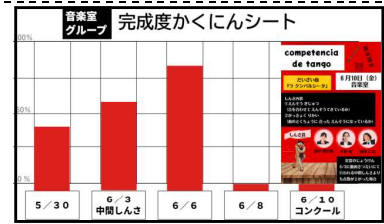
学習活動と働きかけ		主な子供の意識	
見 通 し	1 学習課題を確認する。 【完成度&課題確認タイム】 【目標への情熱】	前の時間は、中間審査の結果を見て、グループの演奏でもっとよくしたいことを考えたんだね。 完成度はだんだん高くなってきたけれど、まだ解決したい課題が残っているから、そこを練習したいな。	明後日はいよいよ本番だから、課題を解決して完成度を100%に近付けて、金賞を獲りたいな。
	<b>金賞を目指してグループの演奏をもっとよくしよう</b>		
行 動	2 課題を解決するための方法例を全体で考える。	タンゴらしいはずむ感じを出すために、もっと工夫できることはないかな。 音をのばすところをしっかりとのばした後で音を短く切ると、よりはずむ感じがするよ。	スタッカートの部分を他よりも強く演奏すると、アクセントがついてはずむ感じがするな。
	3 グループの課題を確認し、練習方法や言葉かけを工夫しながら練習する。 【完成度を高める 秘訣ボード】 【共感性】[忍耐力]	曲の終わりをもっとタンゴらしい雰囲気にしたいため、最後の2つの音だけをスタッカートにしてみよう。 いきなり合わせるの難しいから、まずは協力の秘訣を使って、同じパート同士で聴き合いながら練習してみるのはいかがかな。	強く演奏するとみんなの音がまだずれる時があるから、息を合わせて、きれいに表現できるようにしよう。 やっぱり強くしようとするはずれてしまうな。諦めない秘訣を使って、まずは1段目がびったり揃うように何度も練習してみようよ。
		リコーダーで音を短く切るには、舌を使って短いタングイングをするとスタカートがうまくいくよ。	最後の所が難しく、まだ弾ける時と弾けない時があるんだ。 ゆっくりの速度で、まずやってみて、だんだん速く練習してみようよ。
		協力したら、スタッカートとそうでないところが吹き分けられるようになったね。	諦めずに練習したら、演奏がずれずに合うようになってきたな。もっと練習して完成度を上げていこう。
振 り 返 り	4 本時の学習を振り返る。 【完成度&頑張り チェックシート】 【自分を信じる力】	グループの演奏がすごくよくなったな。完成度は100%だ。 協力の秘訣を使って〇〇さんにアドバイスしたら演奏がよくなったから、完成度が上がったと思ったよ。 いい演奏になっているからコンクールが楽しみだな。	完成度はまだ90%だけど、前よりはよくなったな。 完成度が上がったのは、友達に声をかけてもらって、ゆっくりの演奏を何度も練習できたからだと思うな。 みんなで協力してきたから、きっと金賞が獲れると思うよ。

評 価	グループの演奏の課題を解決するために、友達とコミュニケーションを取って練習を工夫したり、何度も繰り返し練習したりしながら演奏の完成度を高め、さらに次時のコンクールに向けての意欲をもっている。 【方法：様相・録音した音声・カードの選択】
--------	--

## 働きかけの詳細資料

### ～見通し～ 情【完成度&課題確認タイム】(3～6時間目)

前時にグループ内の一人一人が感じた演奏の完成度の平均と、現時点でのグループの演奏の課題を確認することで、題材のゴールであるコンクールに向けて演奏の完成度をさらに高めるために練習したいという思いをもたせる。また、コンクールでの審査基準や金賞の条件等を記載したポスターを提示する(金賞の条件については中間審査が終わるまでは隠しておく。)ことで、コンクールへの意欲をもてるようにする。

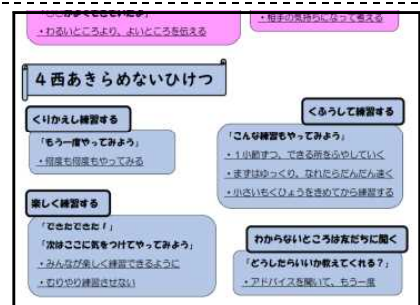


【完成度の平均とポスター】

**価値付け** 完成度と課題を確認した後で、「今日は何をしたいですか」と問い、「コンクールで金賞を獲るために課題を解決して完成度を高くしたい」などと発表したり、全体で解決方法例を考えた後で、「練習をしたいですか」と聞いた時にうなずいたりしている姿を「やる気満々だね。課題が解決できそうだね」などと共感する。

### ～行動～ 共・忍【完成度を高める秘訣ボード】(2～5時間目)

授業前の質問紙調査で、「いい合奏をするために大事なことは何だと思いますか」という質問に対して回答が多かった「友達との協力」「諦めずに練習」について、さらに具体的な話型や行動例を全員で考えたもの(完成度を高める秘訣ボード、以下ボード)をグループの課題の横に掲示し、それを実際に使いながら練習することで、「共感性」「忍耐力」を発揮しながら課題を解決していけるようにする。また、実際に使った秘訣の横に名前磁石を貼ることで、全員が秘訣を使うことができるようにする。



【完成度を高める秘訣ボード】

本時の学習では、まずはどのグループも感じている「もっとはずむ演奏にしたい」という課題を取り上げ、解決方法例を全体で考える。その後、グループでの練習を行い、グループごとの課題の解決方法を試す過程で、このボードにある言葉や行動例を意識して使いながら練習に取り組んでいく。友達との交流や忍耐強い練習がうまくできない時があるA児には、教師がボードを一緒に見ることで、どれができそうか選べるようにする。また、他の子供に、A児に対してボードを使った声かけを促すことで、A児が練習に取り組みやすい環境をつくる。

**価値付け** ボードの話型や行動例を使いながら練習している姿を「〇〇の秘訣が使えているね」とその場で伝えておく。その後、振り返り場面で何の秘訣を使ったかを選択させ、選択した内容に応じて教師が予め用意しておいたコメントを読ませた上で、「協力や諦めない秘訣を使えたから完成度が高くなったんだね」と伝えることで、一人一人の活動に合わせた内容で、全員をその場で称賛できるようにする。

**練習方法を ていねいにする**  
練習方法を ていねいにするのですね！グループの中で意見を言うのは、とてもやる気のあることだと思います。それができたのは、グループのえんそうをよくしたいという思いが強いからなのでしょう。コンクール本番では、きっとその練習のせいかが出るはず！自信をもってえんそうしてくださいね！

【教師のコメント】

### ～振り返り～ 信【完成度&頑張りチェックシート】(2～5時間目)

まず、「完成度確認シート」に本時の演奏の完成度を記録する。次に、完成度が上がった理由を「完成度を高める秘訣ボード」の項目から選ぶことで、行動場面における自分の頑張りを振り返ることができるようにする。自分の頑張りに目が向きづらいA児には、教師が本時の頑張りを伝えることで、選択ができるようにする。

**価値付け** 完成度が高まった理由を選択できたことを称賛する。また、次の時間にしたいことを問い、「コンクールでの演奏を頑張りたい」と発表したり、「コンクールで頑張りようという気持ちが強くなりましたか」と聞いた時にうなずいている姿に、「それだけ頑張ってきたことを感じられているのですね。コンクールが楽しみだね」などと共感する。

【頑張りチェックシート】